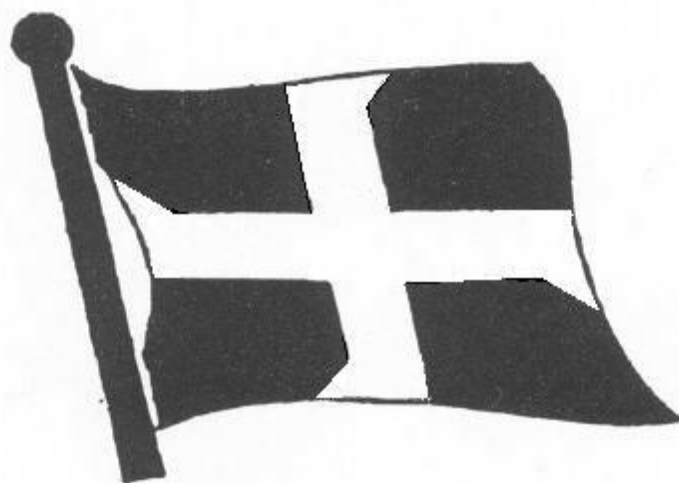


蒼穹 NEWS

No.9

関西学生駅伝総括号

令和4(2022)年 12月12日発行



—目次—

- ①長距離パートチーフ挨拶・監督挨拶
- ②関西学生駅伝結果
- ③関西学生駅伝総括
- ④京都駅伝結果
- ⑤京都駅伝総括

① 長距離パートチーフ挨拶・監督挨拶

《前長距離パートチーフ挨拶》

平素より京都大学陸上競技部をご支援いただき、誠にありがとうございます。

去る11月19日に行われました丹後大学駅伝 第84回関西学生対校駅伝競走大会において、我々京都大学は7位という結果で6位以内という目標を達成できませんでした。6月の伊勢予選で後塵を拝した上位6校との差を埋めることはできず、6位入賞したびわこ学院大学とは5分7秒の差をつけられました。序盤でどれだけ6位の大学との差をつけられずに後半区間に回すかというところが鍵でしたが、4区終了時点で6位の大学と4分30秒近い差をつけられ、最後までその差を埋めることはできませんでした。

上位6校の各選手たちが大きく外すことなくレースを進めたため、事前の持ちタイムや地力を考えると今回の順位は妥当な結果と言えるかもしれません。14分台、30分台の選手を少なくとも8人そろえてようやく上位6校と戦うためのスタートラインに立てるのだと改めて痛感しました。それができない以上他大学がこけるのを待つことでしか勝つことはできません。長年叫ばれていることではありますが、伊勢予選や丹後駅伝で勝ち抜くためには現在のような一部の強い選手に頼った状態を脱却することが不可欠です。その点、今回2区の尾原や3区の原が好走するなどチームとして成長の兆しを感じられたのも事実です。今大会への出走如何に関わらずこういった中堅層の選手たちが大きく殻を破らなければなりません。

来年度の全日本大学駅伝の関西枠が4枠に増える中、今回の結果により伊勢予選のシード権を落としたことは非常に大きな痛手であると言わざるを得ません。一方で今回出走したメンバー8人の内7人が来年度も競技を続けます。まずは6月の伊勢予選に向けて、チームに所属する全ての選手が強い覚悟をもって成長して欲しいと思います。

最後になりましたが、この大会に向けてご支援、ご声援を賜りました蒼穹会の皆様、関係者各位にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。今後ともより一層のお力添えをよろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部前長距離パートチーフ 高橋 侃凱

《現長距離パートチーフ挨拶》

平素より京大陸上部にご支援・ご声援をいただきありがとうございます。

今後1年、長距離パートチーフを務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

さて、丹後駅伝を終え、来年の伊勢予選に向けて京大は関西7位からのスタートとなりました。丹後駅伝で見せつけられた上位6校との差を埋めるべく、まずは記録審査からの挑戦となります。先日の京都学生駅伝ではAチームは3位と目標を達成しましたが、中間層の競技力が他大学と比べ後れをとっていることを痛感する試合でもありました。ハイレベルになりつつある関西で戦い抜くために、層を厚くしなければならないことは、京大の長年の課題でもあります。裏を返せば、入部時の競技力に差はあれど、誰もが次の主力になる可能性を秘めています。全員がさらなるレベルアップを図り、関西インカレ、七大戦、東大戦や伊勢予選、丹後駅伝といった対校戦に向かっていく所存です。

関西の壁を破ることは容易ではありませんが、京阪神新人戦や各種記録会での活躍の通り、勢いのある選手が台頭してきており、新しい力が萌芽しつつあります。今後とも部員がより力を伸ばし大輪の花を咲かせられるよう、幹部としての責務を全うする所存です。

最後になりますが、丹後大学駅伝、京都学生駅伝では多くの蒼穹会員の皆様に多大なご声援をいただきありがとうございました。蒼穹会の皆様におかれましては、部員が目標に向けて精進し、チームとして好結果を残せるよう、今後とも変わらぬご支援・ご声援をよろしくお願いいたします。

京都大学陸上競技部現長距離パートチーフ 尾原 翔

《監督挨拶》

11/19(土)に第84回関西学生駅伝が京丹後地域にて行われました。今年度は6位という目標を掲げておりましたが7位という結果で6位と5分7秒の差をつけられました。後半に柴田(M1)、足立(M1)、鈴木(M1)を主軸にレースを展開する予定でしたが、前半で上位6校の集団から離されてしまい、厳しい展開となりました。そんな中でも学部生からの出場となった尾原(3)や原(3)の区間7位の活躍は見事であります。来年度に全日本駅伝を目指すチームとしては悔しい結果となりました。今回の駅伝でつけられてしまった差を埋める必要があります。自らの練習を見つめ直していく必要があります。

12/4(日)に第89回京都学生駅伝競走大会が京都市内洛北地区で開催されました。目標は3位としており、長距離パートの新チームの体制の初陣となりました。結果は3位と見事に目標を達成し、立命館大学にも24秒も迫る善戦を繰り広げました。最長区間である1区を走った柴田(M1)から2位で襷を渡し、良いスタートダッシュを切ったままゴールまで走り切ることができました。7.3kmの3区を走った鈴木(M1)の活躍は勝負の決め手となりました。全く他を寄せ付けず、2位と48秒の差を付ける区間賞の快走を見せました。新チーム体制としては良いスタートを切れたと考えております。この勢いのまま冬季練習に取り組み、これシーズンが明ける頃には一回りも二回りもレベルが上がった姿を見せたいと思います。

最後になりますが、両駅伝を応援していただき誠にありがとうございました。来年度の全日本駅伝に出場すべく精一杯精進いたしますので、どうか変わらぬご支援ご声援のほどよろしくお願い致します。

京都大学陸上競技部監督 長谷川 隼

② 関西学生駅伝結果

丹後大学駅伝 第84回関西学生対校駅伝競走大会

令和4年11月19日(土)

丹後地域

順位	チーム	記録
1	関西学院大学	4:16:01
2	立命館大学	4:18:27
3	京都産業大学	4:18:36
4	関西大学	4:19:14
5	大阪経済大学	4:21:30
6	びわこ学院大学	4:23:19
7	京都大学	4:28:26
8	龍谷大学	4:31:56
9	同志社大学	4:32:28
10	大阪大学	4:33:01
11	大阪学院大学	4:33:50
12	神戸学院大学	4:35:08
13	神戸大学	4:35:28
14	大阪体育大学	4:37:09
15	関西福祉大学	4:38:03
16	佛教大学	4:39:06
17	摂南大学	4:40:15
18	大阪公立大学	4:40:54
19	近畿大学	4:42:27
20	大阪国際大学	4:45:05
21	放送大学関西	4:49:27
22	兵庫県立大学	4:53:29

③ 関西学生駅伝総括

第1区 10.3km

安本 元虎 (M1) 32:55 区間17位

1区 10.3 kmは安本(M1)が走った。今年から距離が伸びた1区だが、序盤はスローペースでレースが展開した。安本(M1)は、状態が万全ではなかったが、普段通り序盤から前方でレースを進める。しかし、5kmをすぎたあたりから、レースが一気にペースアップし、先頭集団にどんどんと離されてしまう。後半は粘り強く順位を上げたが、6位とは約1分離されるといふ厳しいレースとなった。

第2区 6.8km

尾原 翔 (3) 23:25 区間7位

2区 6.8kmは尾原(3)が担当した。2区は、今年は距離が短くなり、より登り坂に特化したコースとなった。尾原(3)は登りに絶対的な自信を持っており、かなりの好記録が期待されていた。序盤の平地区間では自分のリズムでレースを進め、登りに入り一気に順位を上げた。区間6位と僅差の区間7位と、学部生の意地を見せた。

第3区 7.0km

原 圭佑 (3) 21:18 区間7位

3区は序盤の急な下り坂が特徴で、原(3)は試走で圧倒的な下り適性を見せ出走を勝ち取った選手だ。得意の下りで前との差をつめ順位を上げるも、海からの強風に煽られ登り坂やでは思うような走りができなかった。試走では20分台中盤で走りきれていただけに、悔しさの残る区間7位・初丹後となった。

第4区 9.8km

津吉 順平 (M2) 32:51 区間15位

4区は昨年に引き続き津吉(M2)が走った。今年は怪我が多かったものの、丹後に向けて徐々に状態を上げてきた。序盤こそ昨年の経験を生かして着実にレースを進めたが、後半は思うような走りができず、大きく順位を落としてしまう。競技生活最後のレースは、悔しいものとなった。



最高学年として長距離を支えてきた津吉、ラストラン

第5区 12.3km

足立 舜 (M1) 37:29 区間5位

5区は、エース足立(M1)に託された。13位で襷を受けると、軽快な走りで一気に7位まで順位を上げた。今季状態がなかなか上がらず苦しいシーズンとなったが、丹後路で区間5位と、エースの意地を見せた。

第6区 13.3km

柴田 栗佑 (M1) 41:00 区間4位

春のハーフマラソンで調子を上げた柴田(M1)が、最長区間の一つである6区を任された。関西のエース格が揃う難コースで、大きく差がついた6位との差を少しでも埋めようと序盤からハイペースで突っ込む。目標とした39分台には届かなかったが、区間4位の走りで6位との差を詰めた。



圧倒的実力で前を追うエース、柴田

第7区 13.3km

鈴木 洋太郎 (M1) 40:10 区間5位

7区は、3年連続で鈴木(M1)に託された。6区の柴田同様に前を追ってハイペースで突っ込んで入り、その後は粘り強い走りで10km通過時点では先頭の関西学院大の選手と同タイム。ただ、6位はなかなか見えてこず、終盤に失速。悔いの残る3回目の丹後路となった。

第8区 11.7km

清水 快樹 (M1) 39:18 区間16位

8区は清水(M1)が走った。他大での学部生時代は怪我で思うように走ることができなかったが、今季は秋に5000mで高校以来となる自己記録を更新し勢いをもって望んだ。だが、丹後路では大きく離れた6位を目指し、オーバーペースで入ったためか、中盤から強風に煽られ苦しい走りとなってしまった。

(池田幹)

④ 京都駅伝総括

第 89 回京都学生駅伝競走大会

2022 年 12 月 4 日

洛北地区

順位	チーム	記録
1	京産大A	2:13:03
2	立命館大	2:15:34
3	京都大A	2:15:58
4	同志社大A	2:16:10
5	龍谷大A	2:19:10
6	明治国際医療大	2:21:31
7	佛教大	2:25:41
8	びわこ成蹊スポーツ大	2:26:14
9	滋賀大	2:32:23
OPN	京産大B	2:16:53
OPN	関西福祉大	2:20:04
OPN	大阪国際大	2:21:26
OPN	同志社大B	2:23:39
OPN	龍谷大B	2:24:18
OPN	京都大B	2:25:27

(OPN=オープン)

⑤京都駅伝総括

第 89 回京都学生駅伝競走大会

2022 年 12 月 4 日

京都大 A

A チームは、3 位以内を目標としていた。

1 区柴田(M1)はさすがの走りで区間 2 位。2 区の安本(M1)は本来の姿を見せられなかったが粘り強く走って 2 位を死守した。3 区鈴木(M1)は圧巻の区間賞で先頭と僅差に詰めた。4 区尾原(3)と 5 区清水(M1)は、実力差のある立命館大や同志社大の選手相手にも粘り強く走った。そして、3 位の同志社大学と 2 秒差の 4 位で襷を受けた 6 区足立(M1)のさすがの走りで逆転。狙い通りの展開で 3 位を勝ち取った。新チーム最初の試合、また部として今季最後の対校戦を、目標達成という素晴らしい形で締めくくることができた。(池田幹)



圧巻の区間賞、鈴木(M1)

第 1 区 10.0km

柴田 栗佑 (M1) 30:57 区間2位(区間新)

第 2 区 6.0km

安本 元虎 (M1) 18:45 区間7位

第 3 区 7.3km

鈴木 洋太郎 (M1) 21:34 区間2位

第 4 区 7.3km

尾原 翔 (3) 23:17 区間4位

第 5 区 5.0km

清水 快樹 (M1) 16:30 区間5位

第 6 区 8.2km

足立 舜 (M1) 24:55 区間2位

京都大 B

B チームは、駅伝や対校戦の経験を積みつつ、B チームの中で 3 位以内を獲ることが目標だった。

1 区梅原(2)は、今季大きく力を付けた選手で、実力で下回るなかでも粘り強い走りでターゲットとした大学と僅差で襷を渡した。2 区斎藤(2)、3 区三嶋(2)、4 区稲田(1)は、11 月の記録会で自己新・大学新を出し好調だったが、前の大学と大きく離される厳しい展開もあって、実力を発揮することはできなかった。繰り上げスタートとなってしまった 5 区照山(1)は、実力が上の選手を何人も上回り、次の駅伝男に名乗りを上げる快走を見せた。6 区江端(3)は最終番の上り坂こそ失速したものの、持ち味の安定した走りを見せた。

全体として、目標を達成することはできなかったが、初駅伝・初対校戦となった選手が多く、来年に向けて貴重な経験を積むことができた。(池田幹)



実力派揃いの一回生。駅伝男に名乗りを上げた照山(1)

第 1 区 10.0km

梅原 佑介 (2) 33:24

第2区 6.0km

斎藤 優成 (2) 20:00

第3区 7.3km

三嶋 友貴 (2) 24:07

第4区 7.3km

稲田 正裕 (1) 24:30

第5区 5.0km

照山 潤 (1) 16:38

第6区 8.2km

江端 康汰 (3) 26:48



蒼穹ニュース 令和4年度 第9号
令和4年 12月12日発行

発行所:京都大学体育会陸上競技部
編集者:紀之定玲司・平山悦章・益田椋多(副務)
特別協力:高重広・平林里和子・高山兼輔(学連員)
写真担当:五十嵐聖・松本良平・三嶋友貴(写真係)

陸上競技部 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/>
陸上競技部記録 HP <http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/kiroku.htm>
関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>
メールアドレス hiryama.yoshiaki.33c@st.kyoto-u.ac.jp (平山)